

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	一般小売店〔衣料品・雑貨〕（経営者）	販売量の動き	・前年同月比95%に回復している。しかし夏休み入りの7月21日以降の売上が例年よりも伸びない。明確には判断できないものの、買物エリアへ動く観光客が少ない雰囲気がある。
	やや良くなっている	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・キャンペーン等の実施により、売上が前年同月比120%強と大幅に伸張している。既存店ベースでも前年同月比105%前後と好調に推移している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・お中元や飲料の売上が伸びている。また、常連客以外の客も増えている。家族での観光客が多くなっていて、前月、前年よりも売上が増加している。
		観光型ホテル（営業担当）	販売量の動き	・特に家族単位での客の増加が顕著である。
		観光型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・夏季の旅行繁忙期を迎えて宿泊客の予約状況が上昇している。前年を下回るものの、4～6月の不調さに比較すると好調なスタートである。特に夏休みに入り、ファミリー層の予約が伸びている。ただし、各地の豪雨被害等で旅行マインドの低下が懸念される。
	変わらない	百貨店（担当者）	来客数の動き	・中元ギフトの月ずれにより判断の難しい月である。昨年は8月末だった旧盆が本年は8月8日であることから、ギフト売上の大多数が7月に発生し、店舗全体としてはギフトが占める割合が大きいことから、前年同月比13%前後の増加で月末の着地となる。ただし、ギフト需要を差引きした衣料、住居においては月中の台風接近の影響もあり、来客数において3～4%ほど減少となる。
				・客単価が前年程度に戻りつつあるが、来客数の減少が続くトータルでは前年実績を下回る。夏祭り等の催事による影響も年々減少している。原因は客の分散化だと推測される。地域の分散化もあり、量販店への流出も相変わらずみられる。今年は旧盆も8月上旬と早いが、準備品も量販店へ大きく流れる。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・必要最低限の商品のみ購入する客がほとんどである。以前のような衝動買いは減っている。また、子供に使うお金も、4月以降は例年に比べて減っているように見受けられる。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	販売量の動き	・例年に比べ、観光客は5%ほど増えているが、24時以降の地元客の来客数が減少している。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・台風3号の影響で個人や団体客のキャンセルがあり、稼働率は前年を下回る。
観光型ホテル（商品企画担当）		来客数の動き	・ここ3か月は客単価、販売量ともに横ばいである。	
通信会社（店長）		販売量の動き	・低単価化が更に進んでいる。	
ゴルフ場（経営者）		単価の動き		
やや悪くなっている	一般小売店〔鞆・袋物〕（経営者）	来客数の動き	・ショッピングセンターは、客の動きや販売額はまずまずだが、商店街は道路交通法の影響があり、来客数がかかり減っている。売上もかなり厳しい状況にある。	
			・ここ2年間で競合店が4軒出店している上に、2か月ほど前にも新たな競合店が増え、非常に競争が激しくなっている状況である。	
	コンビニ（経営者）	競争相手の様子	・先月のサッカーワールドカップでテレビ売上が伸びた分の反動が一部ある。	
	家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・買物の内容があまり良くない。できるだけ価格が安い物を探している。一頃のデフレの時と同じような買物傾向がみられる。	
	家電量販店（従業員）	単価の動き	・前年同月より売上が減少している。	
その他専門店〔楽器〕（経営者）	販売量の動き			

		観光名所（職員）	来客数の動き	・施設利用者は、3か月前の平成18年4月は前年同月比で105%程度、今月は7月27日現在で前年を下回っている。台風が接近したこと及び連日の異常な暑さが要因であるとみられる。県外からの入域観光客数も前年同月を下回ると推測される。来園者は、家族連れ、カップル等が中心である。
	悪くなっている	住宅販売会社（経営者）	競争相手の様子	・公共工事の減少、地方財政のひっ迫等により、景気はますます悪くなっている。
企業動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・新築及びリフォームの1件あたりの単価が高額化している。
	変わらない	通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・売上は横ばい傾向である。ただし、前年との比較では良くなっている。消費者向け光インターネットサービスの申込数は確実に伸びているが、全体の売上に占める比率が小さいので売上の底上げにはまだつながらない。
	やや悪くなっている			
	悪くなっている	コピー業（代表者）	受注量や販売量の動き	・印刷業界は毎年悪化している。今月の売上は目標を10%下回り、例年より厳しくなる。
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・企業からの求人数が確実に増えている。しばらく連絡が途絶えていた複数の企業からの依頼や、代替要員ではなく業務拡大のための補充要員としての派遣も多くなっている。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	採用者数の動き	・秋からの採用活動が活発になってきていることと、業務の拡張に伴う人員補充の動きが多いことから景気が上向いている感がある。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数は順調に推移しており、特に県外企業の求人数は大幅な増加を記録している。県内外企業の積極的な求人活動がうかがえる。
	変わらない	職業安定所（職員）	求人数の動き	・6月現在では、3月と比較すると新規求人数は3.2%減少の4,125人である。一般求人は1.5%減少で3,237人（構成比78.5%）である。パート求人は8.9%減少の888人（構成比21.5%）である。6月の新規求人は建設、製造、情報通信、金融・保険、サービスの分野で増加し、不動産、運輸、卸売・小売、飲食・宿泊、医療・福祉の分野では減少している。有効求人倍率は0.07ポイントも下降し0.53倍である。月間有効求人数は12.8%減少の9,844人である。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数自体は増加しているが偏りがある。県外求人はアウトソーシングが多数を占め、県内求人においても、IT産業関連が多数であり、本校にかかわる求人は少ない。特に建設業はほとんど無く、先の見えない状況であるので、良くなったとは言えない。
	やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-	